

# 日本での交換留学

国立政治大学

## リージョウオン

1年間の交換留学は、一瞬で過ぎました。前期と同じく、後期の留学生活も充実しており、毎日スケジュールに追われていたと言っても過言ではありませんが、とても有意義な時間を過ごせました。

後期の留学生活は主に勉強に励んでいました。たくさんの科目の中で、特に市原先生の「上級B論文作法」が印象に残りました。「上級B論文作法」は大学院受験を目指す留学生を対象とし、研究論文特有の表現や、構成の作法、参考文献の扱い方などを中心とする授業です。授業内容は充実で、とても実用性の高い知識を身につけることができました。研究論文を書いたことがなかった私でも、先生のご指導のもと、自分が興味を持っている分野を深掘りすることができ、『テレビCMはジェンダー観をどう形づくるのか：日本と台湾のナプキン広告の比較分析』という研究テーマと研究計画を挙げられることができました。授業で得られた知識を活かし、今後の学習に活用していきたいと思います。

そして、私の交換留学を支えてくれた家族、友人、そしてお茶の水女子大学の職員の方々、先生方、同級生の皆さんに心から感謝を申し上げます。正直なところ、後期が始まる前に、前期でできたたくさんの友達が帰国したため、寂しいさや不安で心がいっぱいでした。海外にいる限り、周りに馴染めない時は山ほどあると思いました。しかし、いつも私を支えてくれる友達がいるおかげで、幸せな留学生活を送ることができました。

母国から離れていることは、自立することだと思います。ひとりで手続きを行ったり、病院行ったりしなければならぬ場面がたくさんありました。その時、いつも相談に乗ってくださったのは先生方でした。私たちを温かく支えてくださり、感謝しきれません。

誰がどう言おうとも、お茶大での生活はかけがえのない経験であり、私の人生の

大切な1ページです。お茶大から離れていても、決して忘れられない、一生の宝物です。